



※一般質問の内容は議員自身が11月定例会議事録に基づき記述しています。

QRコードを読み取り、令和3年11月定例会を選択すると視聴できます。



うえまつ けんいち
植松 健一
(至誠)

フィルムコミッション、ロケツーリズムの可能性について

問 市がフィルムコミッションとなり、継続的にロケを誘致していったらどうか。

部長 フィルムコミッションとして専門的な人材を有する民間団体が活動されていて、地域の活性化と富士宮市のPRに貢献していただいていると認識している。情報を共有しながら連携を図るとともに協力していきたい。

市長 市でやれること、あるいは民間のロケ応援団富士宮等でやれることを役割分担して、市は行政としての役割を行い、ロケ応援団等に対して応援させていただく。それが富士宮市のPRにつながり、経済的な波及効果も期待できる。ロケに来ていただくことは大歓迎であり、また誘致についてもやっていきたい。

問 ロケの誘致と連動してロケツーリズムを企画していったらどうか。

部長 ロケ地を契機としたシティープロモーションや観光誘客活動への大きなチャンスにつながるものとする。今後市として放送、放映された作品内容とその反響等を見定めながら活動団体や地域と一体となって誘客活動に繋がっていききたい。

自伐型林業の普及について

問 持続的森林経営を考えた自伐型林業を推進するための施策を進めていったらどうか。

部長 既に民間主導での実例や実践がある。市として引き続き事業者が森林経営を進めていく上での課題の整理や支援について検討していく。

市長 スギ・ヒノキを主とした林業は伐期が来るまで50年60年かかり、それでは親子2代かけないと投資したものが回収できない状況である。これからはスギ・ヒノキではない、20年から30年で成長する早生木に転換していくことがこれからの林業の道ではないかと思っている。



さの かずひこ
佐野 和彦
(富岳会)

おいしい給食のススメ

問 学校給食の食べ残し量の推移について。

部長 令和元年度は9万5555kg、残食率9.35%。令和2年度は11万1512kg、残食率9.68%。令和3年度は10月まで7万8052kg、残食率10.78%。年々増加しているが、新型コロナウイルス感染症対策の影響と考える。

問 子どもたちの意見を、どのように調理委託業者の東洋食品に伝えているのか。

部長 学校との連絡ノートで、その日の給食について意見や感想をもらい情報を共有している。

問 全国学校給食甲子園に参加できないか。

部長 開催当初から何度か参加し、近年では平成29年度、令和元年度、令和2年度に参加している。まだ入賞できていないが、今後も応募

していく。

意見 残食率がゼロに近づくよう、子どもたちが笑顔になるような給食をぜひお願いしたい。

中学校の部活動と外部指導者導入を考える

問 外部指導者の導入にどのようなことに注意し、学校とのコンタクトを取っていくのか。

また、課題を解消するため、先行してモデルケースを作ることができないか伺う。

教育長 部活動指導員の導入は慎重に進める必要がある。部活動の指導は技術的な指導だけでなく、人間形成においても影響を及ぼすため、しっかりとした指導員の導入が必要と考える。各校全ての部活動に一旦に部活動指導員を置くことはできないので、議員の言うとおりモデルケースを導入し、成果や課題を基に調整を行い、令和5年度を目途に段階的に配置していくことを考えていく。

意見 部活動指導員と教え方の問題でトラブルが起きないように、研修会などを行ってほしい。